

3. 渡来人と一須賀古墳群

古墳時代中頃の5世紀以降、海を渡って朝鮮半島などから多くの人々が移住してきました。彼らを渡来人といいます。

彼ら渡来人は当時のわが国にとっても大きな影響をおよぼしました。窯によって硬い土器を焼く技術、乗馬の風習や馬具、住居内のカマド、金色（こんじき）に輝く金銅（こんどう）製品など新しい技術やモノが次々ともたらされました。

ここ近つ飛鳥博物館のまわりには、6世紀頃につくられた直径10mから20m程度の小さな円墳が260基もあり、一須賀古墳群と呼ばれています。一須賀古墳群では、渡来人によってもたらされた金の飾りが付く耳飾りや銀のかんざし、金銅製の冠や履（くつ）など当時の有力者しか持つことができない貴重な品々が副葬品として古墳に入れられました。

また、竈（かまど）・甕（かめ）・甑（こしき）といった煮炊きに使う道具の形をしたミニチュアの土器がたくさん見つかっており、渡来人の特殊な習俗に関わるものと考えられています。一須賀古墳群は、渡来系の人々が残したものと考えられます。